

第 13 章 環境保全啓発事業・環境教育

1 環境保全啓発事業

(1) 環境月間

環境省では、環境基本法に定められた 6 月 5 日の「環境の日」を中心とする 1 ヶ月間を環境月間と定め、広く国民一般に環境活動への積極的な参加を普及啓発しています。本市においても、環境月間の趣旨を市民、事業所等に啓発するため、各種の行事を実施しています。

平成 22 年度の行事は、表 13-1(1)のとおりです。

表 13-1(1) 環境月間行事内容

(平成 22 年度)

行 事 名	内 容	場 所 等
「環境の日」キャンペーン	環境の日にちなんだ記念品(ゴーヤの種等)を配布しながら、環境の日の意義をPRし、環境保全に対する意識の高揚を図った。	いわきサティ
	横断幕により環境保全について広報。	平南白土地内
いわきのまちをきれいにする市民総ぐるみ運動	6月と10月に海岸、公園及び家庭周辺等の一斉清掃を実施。	市内全域 参加人数: 延べ 269,543 人
ライトダウンキャンペーン 「ブラックイルミネーション2010」「セタライトダウン」	地球温暖化防止のため、ライトアップ施設や家庭の電気を消すよう呼びかけ。	実施施設 ・いわきマリンタワー ・塩屋埼灯台 など 計 16 施設

(2) 新エネルギー啓発事業

新エネルギーについて理解を深めてもらうため、小中学生を対象とした副読本「みんなの新エネルギータウン」の作成や出前講座「WHAT'S 新エネ」の開催など、次世代を担う子供達をはじめ、市民への啓発事業を実施しています。

2 環境教育・普及啓発の推進

(1) 環境アドバイザー派遣事業

本市では、環境に配慮したまちづくりを推進するため、自然とのふれあいや野外観察、健康な暮らし、緑化、省エネルギーや省資源の方法など、市民の皆様が自発的な環境保全活動に取り組むに当たって、参考となる知識を提供する「環境アドバイザー」を市内各地へ派遣しています。

平成23年度は東日本大震災の影響により事業を中止しておりますが、平成24年度は事業を再開する予定です。

表 13-2(1)-1 環境アドバイザー派遣実績

年度	受講者数	派遣回数	派遣人数
平成18年度	1,343	39	69
平成19年度	1,611	44	72
平成20年度	1,563	40	58
平成21年度	2,086	55	88
平成22年度	1,910	50	75

～環境アドバイザーの派遣申請等について～

市民のみなさまが市内において、参加者10人以上の環境に関する講演会や講習会、自然観察会を主催する場合、講師として「環境アドバイザー」を派遣しています。派遣を希望される方は開催予定日の30日前までに環境企画課までお申込みください。

また、「環境アドバイザー」として登録していただける方についても随時募集しておりますので、登録を希望される方は環境企画課までお問い合わせください。

【お申込みにあたって】

- ▼ 講師の謝礼・交通費は市が負担しますが、会場・資料など開催に必要な準備は主催者にてご用意ください。
- ▼ 講演内容等の具体的な事項は、主催者とアドバイザーにて協議していただきます。
- ▼ 政治、宗教、営利を目的とした講演会等への派遣はいたしません。

表13-2(1)-2 環境アドバイザー派遣内容一覧

(平成23年3月末現在)

分類	講演内容		講師氏名
自然環境	自然観察会	自然観察会指導	古川 眞智子 増子 裕子 根本 輝男
		こども自然観察会の支援・指導 キャンプの支援・指導	鈴木 信一
		自然観察から始まる環境教育 自然観察会のプログラム組立及び実施	野口 紘
	ネイチャーゲーム	ネイチャーゲーム指導	古川 眞智子 増子 裕子 根本 輝男
		レクリエーション・ネイチャーゲームの支援・指導	鈴木 信一
	自然環境	幼児期の自然体験活動の支援・指導	草野 秀雄
		学校の総合学習、環境学習の支援・指導	草野 秀雄
		「まちなか案内人」ガイド	鈴木 信一
		樹木による大気環境の再生	野口 紘
		生態系への影響と保全	引地 宏
		自然と環境との関わりについて	古川 眞智子
	植物	水生生物の解説(特に魚類)	平川 英人
		環境-生命-物質の循環について、自然環境に生きる動物と「いのち」	山本 廣
		農業の使用について	高木 力
ハーブの栽培を通して様々な角度から環境問題を考える		宮内 眞佐子	
天体観察・観測	キノコの解説(いわき市を中心とした阿武隈山系にて)	奈良 俊彦	
	自然林の利用と公園緑地化の推進	引地 宏	
	天体観察及び天体観測の解説・指導	桂 伸夫	
生活環境	水質調査	河川や田んぼ等に生息する淡水生物の調査指導	大越 秀夫
		水生生物による水質調査指導	大谷 善浩
		水生生物の解説・水質調査指導(特に魚類)	平川 英人
	生活排水・水環境	生活排水の浄化のしくみ	青木 敏春
		家庭排水の使い方 洗剤の使い方	佐久間 早智子
		水環境と生活排水、大気汚染	栃内 賢一
		水環境の保全と再生	青木 敏春
		環境負荷を軽減する生活改善の支援	大平 恭二
		水環境と生活との係わり 雨水の利活用	橋本 孝一
		からだに良い水と悪い水	引地 宏
	食・料理	昔から生活の中に取り入れられてきたスローライフ・スローフードの提案及び実践	宮内 眞佐子
		野菜(廃利用)の料理	佐久間 早智子
		食と生活環境	栃内 賢一
		食品の安全性について	高木 力
		食から環境を考える「フードマイレージゲーム」の実施	島村 守彦
	ごみ・廃棄物	地産地消、食育、3Rの提案及び実践	宮内 眞佐子
		ごみのゆくえと再生へのアプローチ	青木 敏春
		ごみ問題(ごみ拾い)について	小林 健四郎
		一向に進まぬゴミのポイ捨ての実情等について先進国実例を紹介	石塚 諒
		リサイクル、省資源、廃棄物	佐久間 早智子
		省資源、省エネルギーと自然エネルギー、リサイクル	栃内 賢一
	公害・化学物質	家庭でできる生ごみの減量と有効利用、生ごみ堆肥化方法のいろいろ	先崎 久美子 武田 憲子
		大気、水質、土壌の汚染について 環境アセスメントについて	高木 力
		土壌汚染、大気汚染、ダイオキシン	佐久間 早智子
		生活排水中の環境ホルモン性物質	引地 宏
		化学物質・有害金属について、違法薬物の基礎知識と識別法について	佐藤 健二
		生活排水中の環境ホルモン性物質	引地 宏
		実践するエコドライブ	青木 敏春
		省エネ運転「エコドライブ」の手法、実技	島村 守彦
		住まいの省エネ、太陽光発電、省エネ機器のアドバイス	島村 守彦
現場での体験を通じた「環境」に対する意識向上について		小林 健四郎	
都市環境	生きるための環境	佐久間 早智子	
広域環境	地球環境	河川環境、治水、利水	橋本 孝一
		環境負荷低減の活動内容	青木 敏春
		天体観察を通じた自然環境保全啓発(光害と大気環境保全)	桂 伸夫
		地球温暖化と生活への影響	青木 敏春
		地球温暖化防止実情と今後のあり方	石塚 諒
		自然水について(酸性雨)	佐久間 早智子
		化石燃料と温暖化、大気汚染	栃内 賢一
		地球環境問題と生活との係わり	橋本 孝一
	地球温暖化と防止対策	引地 宏	
	地球温暖化の原因と影響、個人でできる温暖化対策	島村 守彦	
	熱帯雨林気候のマングローブの働き	山本 廣	
循環型社会推進の必要性	石塚 諒		
循環型社会に関する環境教育	引地 宏		

(2) 出前講座等

環境問題や公害防止に関して必要な知識の普及・啓発を図るため、市役所出前講座などに市職員を講師として派遣しています。

平成22年度の実施状況は、表13-2(2)のとおりです。

表13-2(2) 出前講座等への講師派遣実績

(平成22年度)

事業名	目的	開催場所	参加者人数
What's 新エネ	「新エネルギーとは何か」「なぜ新エネルギーが必要なのか」について学習します。	いわき市立平第一中学校 外1カ所	計80人
地球温暖化について考えよう	地球温暖化の原因、現状、生活への影響、そして、その防止のためにできることを考える。	いわき市立平第一中学校 外1カ所	計109人
暮らしに生かそう 環境マナー教室	家庭でできる環境保全対策について、身近な環境負荷の例を示しながら、環境保全の重要性を学びます。	いわき市立平第一中学校	88人
くらしと環境問題 “そしていわき市の環境 now”	環境問題、本市の環境・公害の現状等を知ることにより、環境保全に対する意識向上を図る。	いわき市立平第六小学校 外1カ所	計68人
いわき市の環境を守る (施設見学)	環境監視センターを見学し、いわき市の環境保全と公害防止対策の現状について学ぶ。	国立福島工業高等専門学校	6人
川の生き物観察会	川の生き物を調べながら水の汚れ等について考える。	いわき市立川部小学校 外1カ所	計33人

(3) せせらぎスクール

福島県では、小中学校、高等学校、各種市民団体等を対象とした「水生生物による水質調査」を行う団体を『せせらぎスクール』として募集しています。

本スクールは、身近な河川で簡単にできる水質調査を通じて、水環境保全への関心を高めるとともに、水に触れ、自然と関わりを持つことで、自然保護の意識を醸成することを目的としています。事業概要は、次のとおりです。

- ① 対象 小・中学生、高校生、各種団体等
- ② 実施時期 6月～9月末
- ③ 活動内容

川底から採取した水生生物について、定められている30種類の指標生物に照らし、その種類と数により水質を判定します。

④ 教材の提供

参加団体には、福島県から調査に必要な教材を提供します。

⑤ 活動状況

平成22年度の県内延べ参加者数は7,895名で、平成9年度から14年連続全国第一位であり、うち市内の延べ参加者数は742名となっています。

平成22年度の参加団体は、表13-2(3)のとおりです。

表13-2(3) 市内のせせらぎスクール参加団体

(平成22年度)

No.	団体名	参加人数
1	いわき市立久之浜第一小学校 5学年	51名
2	いわき市立上遠野小学校 第4学年1組	39名
3	いわき市立桶売中学校 第3学年選択理科	9名
4	いわき市立好間第一小学校 第5学年	85名
5	いわき市立川前小・中学校	20名
6	小川郷農地保全会	40名
7	かわせみ流域会	50名
8	下小川関場子供会	38名
9	福岡・環境を守る会	33名
10	上高久子供会	50名
11	いわき市立中央台北中学校	12名
12	福島県立勿来高等学校 理科研究部	10名
13	いわき市立沢渡小学校	37名
14	昌平高校エコクラブ	12名
15	いわき市立綴小学校	12名

(4) こどもエコクラブ

こどもエコクラブは、将来を担う子どもたちが主体的に行う環境保全活動や環境学習を支援するクラブで、環境省や各自治体が応援しています。

事業概要は、次のとおりです。また、本市における平成22年度の登録団体は、表13-2(4)のとおりです。

① 対象 幼児、小・中学生、高校生

② 実施時期 通年

③ クラブの設立方法

● 二人以上の子どもで構成

● サポーター（大人）が1人以上必要

※ サポーターとは、クラブの活動を補助する大人（連絡係）のことです。

● 市役所への登録手続きが必要

④ 教材の提供

バッジ、活動のヒントとなる情報などが満載されたニュースレター（年4回）のほか、サポーター向けの「応援マニュアル」等の教材を提供します。

表 13-2(4) こどもエコクラブ登録団体

(平成 22 年度)

ク ラ ブ 名	ク ラ ブ 人 数	グ ル ー プ の 種 類
まこと幼稚園子どもエコクラブ	クラブ員 113 人 サポーター160 人	幼稚園
昌平高校エコクラブ	クラブ員 13 人 サポーター 1 人	学校・学年
ケロケロクラブ	クラブ員 2 人 サポーター 2 人	家族・親戚
いわき市立中央台北小学校 6 年 1 組エコクラブ	クラブ員 25 人 サポーター 1 人	学校・クラス
いわき市立中央台北中学校理科部	クラブ員 18 人 サポーター 1 人	学校・クラブ
いわき市立石住小中学校 環境美化委員会	クラブ員 7 人 サポーター 9 人	学校・委員会

(5) 星空観察会

全国星空継続観察（スターウォッチング・ネットワーク）は、参加者に光害や大気汚染などのない清澄な大気への関心を高めてもらうことを目的に、全国各地で一斉に肉眼、双眼鏡、カメラを使った身近な方法によって星空観察を行うもので、昭和 63 年（1988 年）から、毎年 2 回（夏期及び冬期）実施している事業です。

本市における平成 22 年度の実施状況は、表 13-2(5)のとおりです。

表 13-2(5) 星空観察会実施団体

(平成 22 年度)

NO.	団 体 名	場 所
1	いわき天文同好会	福島県立いわき公園 多目的広場休憩施設
2	小名浜天体観測所	三崎マリン天文ドーム
3	いわき市立赤井小学校	いわき市立赤井小学校 校庭
4	いわき市立中央台北中学校	いわき市立中央台北中学校 校庭

(6) 環境にやさしいくらしかたをすすめる会

平成 13 年 10 月、いわき市の環境に配慮したまちづくりを推進するための組織として、市民団体を中心に「環境にやさしいくらしかたをすすめる会」が設立されました。

「環境にやさしいくらしかたをすすめる会」では、次のことを重点に様々な事業活動を実施しています。

- ① 環境情報の提供
- ② 環境にやさしいくらしづくりを推進するための啓発事業の実施
- ③ 市民の環境保全活動に対する支援活動の実施